



い き い き

小 富 士 っ 子



R 6 学校便り No9

令和 6. 8. 23

四国中央市立
小富士小学校

首里の丘から沖縄県を眺めて

今年8月7日に立秋を迎えました。季節の上では秋となっており、ちょうど昨日は二十四節気の処暑で、この日に暑さの峠を越えると言われています。そういえば、最近はずいぶん暑さも和らいできているように感じます。しかし、まだまだ残暑が厳しい毎日、もうしばらくは熱中症対策を続ける必要がありそうですね。愛媛県（松山市）の今年8月（8/1～8/21）の平均気温は30.3℃でした。平均30℃越えとは、とんでもない暑さですが、一方、一部の離島を除いて、日本唯一の亜熱帯気候の沖縄県は、一体どれほど暑かったのでしょうか。実は、沖縄県（那覇市）の今年8月（8/1～8/21）の平均気温は30.3℃で、愛媛県（松山市）と全く同じでした。沖縄県には、とても暑いイメージがありますが、暑さは愛媛県と変わらなくて、意外だったのではないのでしょうか。太陽がほぼ真上にあって陰が少なく日差しは強い、暑い期間は長いけれど、日本で一番暑いわけではありません。むしろ、いつも海風が吹いていて、涼しかった印象があります。このように沖縄県には、少しイメージと違ったかもしれませんが、亜熱帯地域としての側面があります。他にも沖縄県には、**離島**としての側面や**琉球王国**だった歴史があるという側面、**アメリカに統治**（1945～1972年）されていたという側面、（米軍）**基地**の島であるという側面、第二次世界大戦において日本で唯一**地上戦（沖縄戦）**が行われた県であるという側面、その他の側面など様々な側面があります。先日、8月15日は「戦没者を追悼し平和を祈念する日」（いわゆる「終戦の日」）でしたが、その日を迎え、私は沖縄県にも戦争の爪痕が残されていることを考えずにはられません。私は大学1年生の時に、首里にあった琉球大学男子寮に住んでいました。私が2年生になると同時に男子寮は大学隣接地に移転し、旧男子寮跡地には、沖縄県立芸術大学が開学しています。沖縄県立芸術大学の学舎建築に際して、男子寮跡地からは合計約2トンの不発弾が発見されたと記録されています。大きい物は1トンもあり、その処理時には、かなり広範囲に避難の指示があったと記憶しています。不発弾とは、爆撃機や戦闘機から投下された爆弾及び戦艦や戦車から発射された砲弾が、何らかの原因で爆発せずに地中に埋まっているもののことです。不発弾は、まだ爆発していませんが、爆発する可能性が十分あります。そうであれば、その2トンの不発弾の真上に1年間住んでいたのですから恐ろしいことです。沖縄戦から79年がたった今日も、不発弾が次々と発見されています。沖縄には、現在も約1900トンの不発弾が地中に埋まっていると推定されており、全ての不発弾を処理するには、あと100年を要するとの見解が示されています。



沖縄戦は、いまだ終わっておらず、100年先まで続くのだという思いで、心が痛みます。新たに戦争している国や地域があることにも心が痛みます。平和に感謝しながら、これからも平和が続くよう祈念し、戦争反対を世界にしっかりと伝えたいものです。大学時代に見ることができなかった、沖縄戦で破壊された首里城をぜひ見たいものです。今、消失により再度建築している首里城の早急な復元を願います。そして、懐かしい沖縄を訪れたいと思います。